

温室効果ガスの排出の抑制等に関する目標及び措置

計画期間		平成26年度～平成28年度				
温室効果ガスの排出の抑制等に関する事項	年度	措置の内容				
	26	ミキサーバーナー用ファンの導入により、S炉炉床ファン電力使用量の削減を図る。				
	27	操業の効率化を通じてエネルギー消費の抑制を図る。				
	28	L-3 吸収塔排熱回収により電力購入量の削減を図る。				
温室効果ガスの排出の抑制等に関する目標	温室効果ガスの排出の抑制	区 分	基準年度 (平成25年度)	目標年度 (平成28年度)	対基準年度比 (%)	
		<input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガス 排出量 A	(二酸化炭素換算(t)) 350,207t - CO ₂ ①	(二酸化炭素換算(t)) 344,000t - CO ₂ ②	98.2	
		<input type="checkbox"/> 原単位排出量 A/B				
		温室効果ガス排出量と 密接な関係を持つ値 B				
	温室効果ガスの吸収等	区 分	目標年度 (平成 年度)			
			取組量等		二酸化炭素換算(t) ③	
		<input type="checkbox"/> 森林の整備等	(整備面積等)	ha	(吸収量)	t - CO ₂
<input type="checkbox"/> グリーン電力 の購入	(購入量)	千kWh	(削減量)	t - CO ₂		
差引排出量	基準年度 ① (平成25年度)	目標年度 (②-③) (平成28年度)		対基準年度比 (%)		
	350,207 t - CO ₂	344,000 t - CO ₂		98.2		
特記事項						

(注)

- 「基準年度」は計画年度の初年度の前年度とし、「目標年度」は計画期間の最終年度とすること。
- 「温室効果ガスの排出の抑制」欄については、削減目標を立てるに当たって指標とするものを「区分」の欄のいずれか選択し、該当する口にレ印を記入すること。この場合において、「原単位排出量A/B」を選択した場合においても「温室効果ガス排出量 A」の値は記入すること。
- 「温室効果ガスの吸収等」欄については、これらの措置を実施するときは該当する口にレ印を記入し、「取組量等」欄及び「二酸化炭素換算(t)」欄に値を記入すること。
- 「特記事項」欄には、「温室効果ガスの排出の抑制等に関する事項」の実施する年度毎に記入したもののほかに、地球温暖化の防止のために取り組むこと等を記入すること。